

シリーズ

東久留米の学校史

その10

新制度の学校2

昭和20年(1945年)8月15日、長く悲惨な戦争が終結し、日本は困難な再建への道を歩み始めます。前回は新制久留米中学校の開校を取り上げましたが、今回は戦後の小学校の変遷をみていきたいと思います。

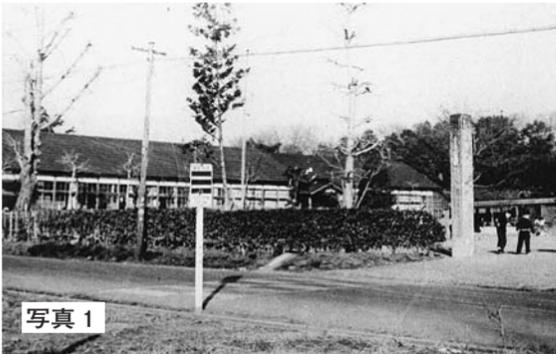


写真1

久留米小学校の再生 終戦後、小学校の教科書の一部を墨で塗りつぶして使ったことに象徴される最も困難な時代を過ぎ、昭和22年(1947年)3月31日に「教育基本法」が公布され、4月1日から新学制の小学校が誕生しました。戦時に国民学校と改称された小学校は、新制度のもとで村立久留米小学校として再生したのです(写真1)。

←久留米小学校 (昭和26年当時)

当時の久留米村の公立小学校は、昭和25年(1950年)の資料によれば、1年生から3年生各1学級、4年生2学級、5年生4学級、6年生3学級の合計567名の児童がこの前沢の本校で学びました。南沢の東分教場は、昭和25年5月に400mほどの現在の第三小学校の所に新築した校舎で東分校として出発しました(前年に当初中央分教場として建築し、東分教場と合併

校は久留米小学校のみでしたが、教場は前沢(中央町六丁目)の本校(現第一小学校、南沢(中央町一丁目)の東分教場、前沢(八幡町二丁目)の西分教場の3か所があり、児童数は昭和19年にすでに1000名を超えていました。戦後の小学校の再生について、その施設面からみると、三つの教場の再編が行われたのが大きな特徴です(前号の地図参照)。

前沢の本校では、昭和23年6月に旧校舎3棟の移築が行われました。この旧校舎は、明治36年(1903年)から44年に小井井街道を挟んだ元の久留米尋常高等小学校の場所にコの字型に建てられた3棟で、その旧校舎を移築して本校舎の南側に一列に配置したものです。その結果、本校舎6教室に旧校舎6教室の12教室に拡張されました。その移築途中の情景を米軍撮影の空中写真に見ることができま

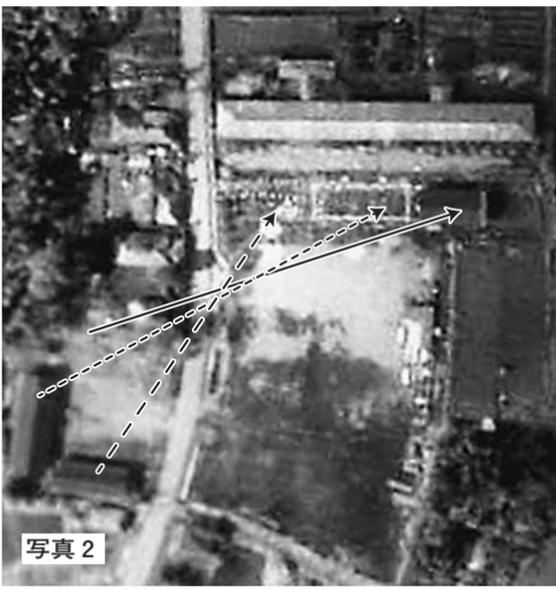


写真2

す(写真2)。移築は3段階に分けて行われ、この写真では旧北校舎はすでに新しい場所に移築済みで、その西側に旧西校舎の基礎ができています。最終的にはその西側に旧南校舎を移して一列に連結して、本校舎と並んで東西に細長い2列の校舎としたのです。昭和25年(1950年)の資料によれば、1年生から3年生各1学級、4年生2学級、5年生4学級、6年生3学級の合計567名の児童がこの前沢の本校で学びました。南沢の東分教場は、昭和25年5月に400mほどの現在の第三小学校の所に新築した校舎で東分校として出発しました(前年に当初中央分教場として建築し、東分教場と合併

して新たに東分校としました。旧東分教場の建物は、不足していた久留米中学校の校舎としました。旧東分教場は、戦後新制中学校となった旧都立久留米青年学校の東隣にあつたことから、そのような交換の措置が講じられたと思われま。新たな東分校は、1年生から3年生を中心に4年生2学級を加えて、8学級374名の児童数となりました。

旧村役場に隣接する前沢の西分教場はそのまま西分校となり、1年生から3年生までの各1学級140名の学び舎となりました。昭和25年度の児童数は、三つの教場で、合計23学級1081名(男子577名、女子504名)でした。戦後の教育内容の改革は、「教育基本法」に明記されていますが、それぞれの学校では具体的にどのように捉えられていたのでしょうか。その例として昭和25年の久留米小学校の「学校要覧」があります(写真3)。新学制から3年後のものであり、最も古い

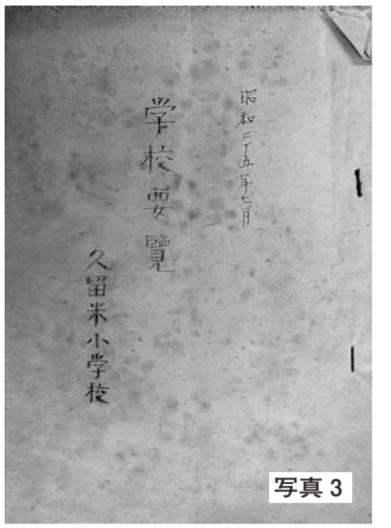


写真3

↑学校要覧(昭和25年7月)久留米小学校・市郷土資料室所蔵

「学校要覧」の一つでしょう。20ページの折り版刷りで、わら半紙が使われ、ホチキス止めになっています。内容は、学校運営の基本方針・学校の沿革・校地校舎・字別児童数・校舎使用図・学校行事計画表・PTA・身体の全国平均との比較などです。なかでも、学校運営の基本方針には、「児童の環境と心身の発達に即した学習の指導」、「豊かな情操と明朗な人間を育成する」、「文化と平和を愛し民主的な社会を構成する人間を育成する」など、戦後の民主的な社会を目指す教育の考え方が挙げられています。

↑旧校舎移築中の様子 1948年撮影米軍空中写真(USA-AM8711164部分・国土地理院・矢印追加。本校舎の南側に移転中の旧校舎の様子が分かります。旧北校舎は移築済み、旧西校舎は基礎のみで建物は未移築、旧南校舎は移築前。南北の道が小井井街道で、すぐ北側が前沢宿。

も、新制度による小学校や中学校が誕生し、その後の教育への基礎が築かれたのです。高度成長期の学校 久留米村が大きく変化するのは、東京郊外のベッドタウンとして変貌する日本の高度成長期である昭和30年代以降です。昭和31年(1956年)8月1日に北多摩郡では最も遅く町制を施行し、久留米町となります。その当時の人口は約1万人でした。その後、昭和34年のひばりが丘団地を皮切りに、東久留米団地・滝山団地・久留米西団地など次々に大規模住宅が建設され、市制施行直前の昭和45年(1970年)1月には7万8千人の日本一人口の多い町となっていました。こうして同年10月1日に東久留米市が誕生します。東久留米市の名称は当時の自治省の意向による九州の福岡県久留米市との市名の重複を避けるためもあり、長年親しまれてきた東久留米駅から名付けられたといわれています。町制施行から市制施行までの14年間の人口増加は実に約8倍に及び、当時としては記録的な数値でした(現在もこの人口増加率を超えた市町村はないといえます)。

この都市化に伴う人口増加で最も影響を受けたのが教育施設の不足でした。それに対応するため、東久留米市では昭和35年から54年までに15校の小学校と、5校の中学校が

開校しました。特に昭和50年度には、3校の小学校が建設されています。各小中学校の開校年度は次のとおりです。昭和35年度 第二小・昭和37年度 第三小・昭和38年度 第四小・東中・昭和39年度 第五小・昭和41年度 第六小・昭和43年度 第七小・西中・昭和45年度 第九小・昭和46年度 第八小・昭和47年度 第十小・南中・昭和49年度 小山小・大門中・昭和50年度 神宝小・滝山小・南町小・昭和51年度 本村小・昭和53年度 下里小・下里中・昭和59年度 中央中(学校教育要覧から)

このような郊外型の都市化に伴う環境変化は東久留米市に限ったことではありませんが、日本の高度成長期は多くの自治体さまさまに困難に直面した時代でもあったのです。時は移り、現在は少子高齢化という新たな社会的課題と向き合う時代となりました。学校は、その時代の影響を真正面から受けています。そのようななかで児童・生徒のより良い教育環境を模索してきたのが学校の歴史であつたといえるでしょう。

シリーズ「東久留米の学校史」は今回で終了します(本文は山崎 丈・市文化財保護審議会委員による)。

詳しくは生涯学習課文化財係 ☎472・0051へ。

教育委員会の動き

〔教育委員会委員が再任されました〕

令和元年第3回市議会定例会において、細田初雄氏が再任されました(任期は令和元年10月1日〜令和5年9月30日の4年間、略歴は以下のとおり)。高校野球解説者・農業経営、元関東高等学校、成蹊



細田委員

大学及び駒場学園高等学校の野球部監督。再任に当たり、細田委員に決意を伺いました。

「言いつてもなく、子どもたちが小・中学校で過ごす時間は、知識を広く身に付け、将来に向けて基礎を固める大切なときです。自分の子どもころよりも、今の子どもたちは変化の激しい時代をたくましく生き抜く力が求められていると思います。「生き抜く」という言葉には「生きる」よりも、もっと主体的に力強い精神力が求められると思います。私の子ども時代にはない言葉です。 さて、「生き抜く」力とはどのように育(はぐく)まれるのでしょうか。学校だけでなく、家庭だけでも無理です。学校・家庭・地域が連携し、信頼できる関係を築いていかないと、望ましい教育環境は成り立っていきません。 私は、特に、学校と家庭の連携を深めていくことが重要だと、この4年間、教育委員を務めてつくづく感じました。子どもたちは身体が大きく成長し、併せて、自己を認識するときです。ものの見方や考え方も変わり、友人関係や行動範囲も広がるとともに、急激な変化に自分自身が追いつかず、心身のバランスが崩れる心配があります。学校と家庭がそれぞれの立場から子どもたちをしっかり見つめ、協同して子どもを見守ることの大切さを改めて発言していきたいです。子どもたちの学力、安全対策に教育委員として力を注ぎたいと思います。 今年の2020年はオリン

ピック・パラリンピックが開催される年です。「オリンピック・パラリンピック憲章」では、人間の尊厳の保持に重きを置き、平和な社会と奨励することを旨とし、スポーツを人類の調和のとれた発展に役立てることが目的であると示されています。開催をきっかけに、子どもたちが世界の多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間に子どもたちが成長してくれるといいと思います。そして、選手の活躍だけではなく、大会を支える多くの方々の熱き思いが、大会を成功させる大きな要因になることは間違いのないと思います。子どもたちが大きく成長するきっかけになることを望みます。」

Advertisement for the Central Library renovation project. It includes a cartoon illustration of a person holding a sign that says '中央図書館では大規模改修工事を行います' (The Central Library is carrying out major renovation work). Text below the sign says: '中央図書館は開館から40年以上が経過しており、施設の高齢化への対応等に向けて、令和2年度に大規模改修工事を計画しています。令和2年度の当初予算が成立した際は、工事の実施にあたり、6月以降、長期間の休館を予定していますが、中央図書館以外の地区館3館は通常どおり開館するほか、休館中の対応も検討中です。詳細は令和2年度予算が成立後、広報がしるめ及びホームページ等でお知らせします。詳しくは図書館 ☎475・4646へ。' To the left, there is a box titled '《教育相談室のご利用》' with the text: 'まずはお話ししてみよう いじめや勉強などの学校生活の悩みは、一人で悩んでいないで、教育相談室へご相談ください(開設時間は直接お問い合わせを)。' Below that, contact information for the consultation room is provided: '◎中央相談室(教育センター内) ☎473・33667 ◎滝山相談室(西中隣り) 今年の4月から、西部地域センター内に移転します ☎475・89909' At the bottom left, there is a small notice: '2ページの設問の回答です。〔算数〕216平方cm 〔社会科〕エ 〔英語〕ア 〔数学〕-1/9 「えっ」と首をひねった大人はいらっしゃいますか…。'